

安全指導研究部会

I 研究テーマ

「安全教育の今日的課題」～子どもの安全を考える～

II 研究テーマ設定の理由

これまで、子どもたちが少しでも自分で自分の身を守ることができる力をつける安全教育のあり方を研究し、様々な実践をしてきた。子ども達が安全マップを作り、どのような場所が危険で、どのような対処をしていけばよいのかを考えさせることで、安全に対する意識を高めることができた。また、完成した安全マップの発表を通して、自分たちの地域にもある危険な場所を、少しでも安全な場所に変えていくためにはどうしたらよいかを考えるなど、地域を安全にするための働きかけを行うこともできた。その活動の中で、アドバイスをもらったり、ゲストティーチャーとして話を聞いたりするなど、地域の方や保護者の協力を得て、一緒になって学習を作り上げてきた。

東日本大震災を契機に、交通安全、防犯以外の防災教育にも目を向けてきた。一昨年度は子ども達が安全マップを使って、地域で考えられる危険から自分を守るための方法を考える実践を行った。また昨年度は、実際に地震が起こったときに、どのように1次避難をすればよいのかを、子どもがマップ作成を通して考えた。さらに保護者も参加し、一緒になって子どもの安全について話し合うことができた。

このように本部会では、子ども達と考える安全教育、地域や保護者とつくる安全教育を作り上げてきた。「安全教育の今日的課題 ～子どもの安全を考える～」をテーマにして8年目の今年は、昨年度の研究をさらに深めていった。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

- 4月11日 役員選出 研究テーマ設定第1回安全指導研究会
- 5月14日 研究方法の検討 研究計画の詳細確認
- 6月20日 臨地研修・県防災安全センター
- 7月31日 臨地研修の振り返り
- 8月16日 防災教育の実際（群馬大片田先生の講演ビデオ視聴）
- 9月 3日 指導案検討
- 10月 1日 指導案検討
- 10月 7日 研究授業 研究会 リポート検討
- 11月 5日 臨地研修・県防災新館
- 1月22日 研究のまとめ、来年度の方向性についての話し合い

2 研究の内容

授業実践(湯田小5年生)

(1) 指導目標

- ・地域の防災対策について知り，災害時の行動について考える。
- ・避難訓練の重要性、必要性を知る。

(2) 授業協力

- ・甲府市防災対策課 湯田地区連合自治会 湯田小学校保護者

(3) 指導計画と学習の経過

1 学習の経過

① ゲストティーチャーの紹介

- ・甲府市企画部危機管理室防災課課長 様
- ・湯田地区自治会連合会副会長 様

②昨年度の授業のふり返し

- ・昨年度の資料を見ながら，ふり返る。

③これまでの地区の防災訓練の様子をふり返る

- ・課長さんから防災訓練の概要について

④地区防災訓練実施までの取り組みを聞く

- ・副会長さんより，湯田地区の防災訓練の様子やそれまでの打ち合わせや準備のこと，市から要請されること
- ・課長さんより，甲府市全体の防災訓練の計画について。予想される地震への被害予想や対応。避難所や非常食、飲料水など自分の身を守るためのシェイクアウト訓練

⑤ゲストティーチャーへの質問

①これからの行動について考える。

- ・公助、自助、共助の大切さについて。

⑦まとめ

(4) 研究会から

- ・授業後の感想から、防災についての意識は，これまでの積み重ねもあり、年々高くなっていると感じられる。
- ・ゲストティーチャーのお話の内容が豊富で，時間を押してしまった。パネルディスカッションの授業構成であったので、児童自身が活動する時間が短くなってしまった。
- ・子ども達のモチベーションが高く，前向きに授業に取り組んでいた。
- ・話を聞くことが中心になったので、話を補う視覚情報が有効であった。

- ・ゲストティチャーの方から実際の非常飲料水やカンパンをいただいたことや学校のグラウンドに貯水槽があること、体育館が避難所になるといった計画 災害が起こったときに自分の身の回りに様々な防災対策があることに気付くことができた。
- ・ゲストティチャーの話が専門的になったりすると、教師が具体的に詳しくかみ砕く補助をしていた。
- ・防災についての情報は変わっていく。それに対応して情報を更新していく必要があるのだろう。

(5) 保護者の感想

- ・「防災」は人ごとではない自分たちが自分を守るために何をすべきか、何ができるか、家庭でも繰り返し話し合い、どんどん訓練に参加していくなどして何が起きても焦らず、慌てず、体が自然に動くというのが理想的です。
- ・甲府市は大きな台風などが近づいても全国でニュースになるような被害もなく、とても住みやすいと思います。そういう油断が日頃の意識の低さにつながっていると思いました。防災訓練などの行事に祖父母は参加しても自分たちは参加せず、わかっているけどコミュニケーションをとるのがつい面倒だと思えることが多々ありました。しかし災害があったときはもちろん、普段の子どもの安全を守るために不可欠だと改めて感じました。
- ・自治会の副会長のお話からも、毎年防災訓練のために膨大な時間を費やし、準備されていることなどを知りました。避難所＝体育館くらいに思っていたことを湯田小避難所開設図を見て恥ずかしく思いました。まずは自助の見直し、共助のために地区の方とコミュニケーションを深めることが大切だと思いました。

IV 研究の反省と課題

今年度も昨年度に引き続いて湯田小学校で授業研究をおこなった。同じように保護者参加型の授業である。今回は一次避難をしたあとに、地域や市がどのような避難の計画や対策をしているかをゲストティチャーの話聞き、子どもなりに理解していく授業を計画した。

市全体の防災のことについて市の防災課の職員に、それを受けた自治会の動きについては連合自治会の副会長さんにゲストティチャーとしてきていただいた。とりあえず自分の身を守った後に、どこにいけばいいのか。どのように避難生活をするのか、食料はどうなっているのかといったような疑問にも答えていただくなかで、自分たちの住む地域には計画的な、組織的な防災計画があることに子ども達なりに気づくことができたと考える。また、多くの保護者が参観されることで、家庭での避難についての話もするきっかけになったのではないだろうか。

二年間研究授業を行った湯田小学校のように保護者の意識が高く、防災へのとりくみが活発なところが多いかもしれないが、このような動きが、一過性のもので終わることのないよう、どう続けていくかがこれからの課題となるのではないかと考える。

